

令和5年度 江戸川区立清新第一中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら学び進んで働く生徒 ・心身ともに健康な生徒</li> <li>・自他を尊重して協調性を発揮する生徒</li> <li>・社会に対する責任を自覚して実践する生徒</li> </ul>	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知・徳・体」のバランスのとれた生徒が育つ学校</li> <li>・自ら意欲的に学び、個性を伸ばす生徒</li> <li>・自身の専門性を高め続ける姿勢をもつ教師</li> </ul>
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果> ①全教員が年1回以上、ICT活用による授業実践を行った。 ②インクルーシブ教育として行事や授業で交流を行った。 <課題> ①タブレット端末を活用した授業等のスキルアップ ②不登校対策 ③働き方改革 ④特別な支援が必要な生徒への対応		

教育委員会重点課題	<取組項目> ・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間35回以上の補習の実施</li> <li>・定期的な教科部会と連携部会の実施</li> <li>・業者と教員による放課後補習教室の実施</li> <li>・TGGを活用した英語力の向上</li> </ul>	保護者・生徒のアンケートの肯定的な評価が80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後補習を計画的に実施している。</li> <li>・全国学力調査の結果が向上している。</li> <li>・全国学力調査のアンケートで肯定</li> </ul>	A	着実に力をつけてきている。より一層力を入れ、底上げが課題。	全体の学力の向上を図るためさらに補修体制を構築する
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の活用の推進、学校図書館を使った授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、他教科との横断的な連携等</li> <li>・図書室を活用した授業実践と読書科の充実</li> </ul>	生徒アンケートの肯定的な評価が90%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年読書を通じ自分の考えを深め他者に伝える授業を行っている。</li> </ul>	B	引き続き、探求学習を充実させ、充実させてください、	学校図書館を活用し、3年間の繋がりある指導計画を構築し、探究活動を推進する。
	<教員研修の充実> ・教員の授業実践に向けた研修 ・ICT機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教員が他教員の授業を年2回以上観察</li> <li>・生徒が毎日タブレット端末を使用した授業や宿題等の課題を行う</li> </ul>	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末の活用方法の研修会を行った。</li> <li>・さらに活用できるように研修を行い授業力を高める。</li> </ul>	B	ICTを活用した授業が進められている。研修を通じ、授業力を高める。	授業でのICT活用を推進していくために校内研修を計画的に行う。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時の保健体育の授業での補強運動を積極的に行う</li> <li>・運動会、ロードレース大会への取組を通して持久力や意欲の向上を図る</li> </ul>	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、保健体育の授業で補強運動を行っている。</li> <li>・運動会を通常通り行ったのでロードレース大会も実施し、体力向上に繋げる。</li> </ul>	A	毎時間の補強運動が出来るから、運動会を以前のようにできていた、	計画的に運動を行い、体力に向上を図る。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の校内委員会での情報共有と手立ての確認</li> <li>・エンカレッジルーム活用の充実と推進</li> </ul>	保護者アンケートの肯定的な評価が70%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、校内委員会を実施し、情報共有を行うとともに、組織的な取り組みができています。</li> <li>・エンカレッジルームの活用方法を周知し、さらに推進していく。</li> </ul>	B	相談体制を明確化し、一人一人の特性に合わせた指導の方法を改善していく。	情報の共有を円滑に行い、周知していく。
	<インクルーシブ教育の推進> ・特別支援教育の理解啓発と授業における工夫 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流する場面(給食や行事など)の充実</li> <li>・講演会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流給食 年間10回</li> <li>・交流授業・行事年間20回</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や修学旅行で交流活動を行った。今後交流給食等も行いさらにインクルーシブ教育を推進する。</li> </ul>	B	一緒に活動することで、意識が高まっていくと思うので、これからも交流の場を大切にしていきたい。	行事だけでなく、授業や委員会など様々な場面で共同学習を進める。
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談体制の充実</li> <li>・週1回の生活指導部会での情報共有と手立ての確認</li> <li>・hyper-QUの実施年2回</li> <li>・SCによる面談の充実</li> </ul>	不登校生徒を10%減らす	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導部会で情報共有を行い、SC等と連携し組織的に対応を進めている。</li> </ul>	A	不登校生徒を一人でも減らせるよう努力をしてください。	情報共有を行い、生徒一人ひとりへの対応を組織的に行う。
	<健全育成に向けた取組の強化> ・いじめの未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「SNS家庭ルール」等の徹底</li> <li>・居場所づくりの拡充と公的機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート等でいじめを認知した場合、1ヶ月以内の解決を目指す</li> </ul>	A	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セーフティ教室や「えどダブルルール」等を活用し情報モラル指導を行っている。</li> <li>・エンカレッジルームを活用し、さらに子どもたちに居場所づくりを推進する。</li> </ul>	B	いじめに対しては今後も迅速に対応をしてください。	生徒の変化に対し注意を払い、いじめの早期発見に努め迅速な対応を行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日1回以上内容の更新</li> <li>・行事等の発信</li> </ul>	保護者アンケートの肯定的な評価が70%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報推進リーダーを中心にホームページの更新を常に行っている。</li> </ul>	B	さらにホームページの充実を図っていく。	ホームページの更新を常に行っていく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・保護者アンケート、教職員アンケート、学校関係者評価の分析、工夫・改善</li> </ul>	学校関係者評価のAが80%	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの工夫・改善を行う。</li> </ul>	A	学校評議委員会に出席し常に学校を振り返った取り組みをしていると感じる。	さらに見通しの良い学校運営を行っている。
特色ある教育の展開	<連絡ノートの活用> ・生徒の生活を見守り、相談を受ける体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、担任が連絡ノートを回収、コメント記入</li> </ul>	全クラスで実施(100%)	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全クラスで実施できている。</li> </ul>	A	今後も続けて保護者と連携をとってほしい。	生徒とのコミュニケーションの一つとして、今後も連絡ノートを活用していく。
	<学校における働き方改革> ・ライブ・ワーク・バランスの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月1回の定時退勤日の徹底</li> <li>・部活動の方針やガイドラインに沿った活動時間・休業日の設定を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の在校時間を11時間を目指す</li> <li>・月の定時外在校時間60時間以下を目指す</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定時退勤についての意識は高まっているが、さらに意識改革が必要である。</li> </ul>	B	今後とも教員・保護者ともに意識改革が必要である。	仕事の効率化を図る。会議時間の設定の見直し。